**令和5年度**

**次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点**

**共同利用公募要領**

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター（以下、センター）は、令和3年度より第三期の教育関係共同利用拠点に認定されています。第三期の課題「次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点」では、令和5年度もセンターをより多くの機関の方々に有効に利用していただくため、共同利用教育活動を募集致します。本公募によって、次年度の利用計画を早い段階で把握・調整し、円滑かつ有効なセンター利用を目指しておりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。本公募は、申請校（機関）の単位を伴う共同利用申請を優先致します。

本公募終了後も、引き続き通常の利用申請は随時受け付けていきますが、**本公募申請を優先的に取り扱う**ため、日程等はご希望に添えない場合があります。

特に、夏季（７月後半－９月）は混雑が予想されますので、現時点で令和5年度にセンターを利用することが決定している場合は、本公募に申請されることをお勧めいたします。

近隣地域等での新型コロナウイルス感染症感染拡大や集団感染などが発生し、浅虫センター感染防止対策管理委員会が、実施中あるいは予定されている共同利用に対して、停止・中止を要請する場合がありますことをご理解願います。共同利用に応募される際は、センターウェブサイトで、現時点でのセンターの新型コロナウイルス感染症感染防止策と外部利用受入状況、および下記「（５）共同利用施設・設備」の本館、宿泊施設の項を参考にしてください。ただし、利用条件は、感染状況により刻々と変わる可能性があることを申し添えます。

本公募は主に以下の3項目について、教育活動支援を行います。また、これ以外の教育活動の提案も受け付け、活動内容に応じた支援を提供しますので、随時ご相談下さい。

**共同利用教育活動**

1. 臨海実習・授業等

大学における臨海実習、授業の一環としておこなう野外活動等の教育活動（実習授業の中の一部でも可能）です。センター施設、設備の提供に加え、ご相談に応じてセンター教員による指導を提供することも可能です。

1. 卒業論文・修士論文作成のための研究等

指導教員が学生を引率しての利用及び学生のみでの利用、ともに受け付けます。いずれの場合も指導教員による申請が必要です。

1. セミナー、研究集会等

申請方法は②と同様です。

共同利用による施設利用の場合、光熱水道料金等の施設経費、宿泊費はセンター負担とします。実習滞在時の利用者経費は食事提供費とクリーニング代のみとなる予定です。昨今の原材料費の高騰やコロナ対策に伴う使い捨て食器の使用などによる経費増大を鑑み、令和5年度より食事提供費の値上げを検討しておりますので、どうぞご了承くださいます様お願い致します。またセンター利用時の機器及び消耗品については、できる限り提供を致します。機器や消耗品を希望される方は、申請書の「3．共同利用の内容、③その他付記する事項」欄に、希望する品目の内訳を具体的にご記入下さい。

**共同利用申請の手続き**

**（１）提出書類**

申請書（様式１）に必要事項を記入し、メールに電子ファイルを添付してお送りください。Faxまたは郵送でも構いません。

**（２）申請書提出期限と採択結果発表**

申請書の提出締切日は、**令和4年12月12日（月）正午**と致します。 (Fax、郵送の場合も同様とします)。

申請書は、令和5年1月のセンター共同利用協議会にて審査します。採択結果は、**令和5年1月末**にメール（あるいはFax、郵送）にてお知らせする予定です。

**（３）提出先および問い合わせ先**

E-mail: asamushi@grp.tohoku.ac.jp

〒 039-3501 青森県青森市大字浅虫字坂本9番地

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター・事務室

TEL: 017-752-3388

Fax: 017-752-2765

メールにて提出される場合、件名と申請書ファイル名を「**R5公募利用申請（大学名・利用代表者氏名**（複数件申請される場合は通し番号をふってください）**）**」とし、Faxの場合はメールの場合と同様の件名とし、郵送の場合は「**R5公募利用申請書在中**」と記載してください。

**（４）報告書の提出**

申請課題が採択された利用代表者は、教育活動終了後、令和6年3月31日までに報告書（様式2）の提出が必要となります。共同利用の成果を何らかの形で公表する場合には「次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点」を利用した旨を明記し、当該資料の提出をお願いいたします。

**（５）参考：施設所属常駐教員の研究内容および共同利用施設・設備**

|  |  |
| --- | --- |
| **教員** | **研究内容** |
| 熊野　岳　（教授）美濃川　拓哉（准教授）岩﨑　藍子（助教）森田　俊平（助教）福森　啓晶（助教） | 海産無脊椎動物の胚発生学　海産無脊椎動物の進化発生学　海産底生生物の個体群・群集生態学　生殖生物学　軟体動物の系統分類学 |

**利用可能デジタルコンテンツ**

実習室での実習生の密集の回避、事前・事後学習を目的に、センターではデジタルコンテンツ（動画資料など）を用意しております。デジタルコンテンツについては、センター教員にお問い合わせください。

ダイジェスト動画URL：http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/textbooks.html

**本館（研究教育棟）**

学生実習室：通常25名（最大40名）ですが、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から**2022年11月現在実習室の最大利用人数を20名に制限しております**。センターウェブサイトで詳細をご確認ください。

 実習室設備：淡水・海水流し、生海水、ろ過海水、インキュベーター、冷凍冷蔵庫、ビデオプロジェクター、スクリーン。

講義兼会議室：通常20名（最大35名）（実習室同様利用人数に制限を設けております）、ビデオプロジェクター、スクリーン。

図書室：生物図鑑等、閲覧及び資料整理用机。

潜水準備室：免許を持ちセンター長の許可により利用、必要機材は各自準備すること。

工作室：作業台、旋盤、グラインダー、電動ドリル等

船舶：うとうIII（9.32 m、300馬力、定員17名）

**機器類**

生物顕微鏡：Nikon E200 (暗視野スライダー付き) 22台、Olympus IX-41など20台、この他、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡など。

実体顕微鏡：Olympus SZ61（透過＋落射照明）25台、OlympusVM など 25台（落射照明）、Leica S6E（透過＋落射照明）1台、実体顕微鏡用ケーラー照明装置20台、簡易照明装置20台

分析・採集機器等：qPCR装置**、**高速冷凍遠心機、高速液体クロマトグラフィー、卓上遠心機、野外採集観察用機器一式（小型曳き網、海中のぞき箱等）、スマートフォン用顕微鏡6台

その他の機器についてはご相談ください。

**生物飼育施設**

水槽室：生海水、コンクリート製10トン掘り込み水槽1、コンクリート製5トン掘り込み水槽2、FRP水槽6

海水供給設備：ポンプ室、海水槽、海水ろ過装置

**宿泊施設**

新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、2022年11月現在以下のとおり、宿泊施設の利用人数を制限しております。センターウェブサイトで詳細をご確認ください。

宿泊定員（洋室、和室、バリアフリー室）：通常の定員は44名ですが、宿泊部屋に部屋間仕切りを設置し（4名相部屋4室、2名相部屋2室）、外部宿泊者の最大人数を20名に制限しております。

食　堂　：通常の定員は44名ですが、ソーシャルディスタンスを保つため、最大12名の利用としております。これを超える人数の利用の際は、交代制で食事を提供しております。

シャワー室（1室）・浴室（1室）：通常それぞれを複数名同時利用することができますが、利用時は1名ずつでお願いしております。

 その他の設備：談話室、トイレ、バリアフリートイレ、洗面所、洗濯機、乾燥機

他に長期滞在者用宿泊棟（洋室2、和室1）

**インターネット**

本館、学生用宿舎（無線LANでのネット接続が可能）

**URL:** http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/index.html

|  |  |
| --- | --- |
| 整理番号 |  |

**令和5年度　次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点
共同利用申請書**

令和　　年　　月　　日

浅虫海洋生物学教育研究センター長　殿

代表者所属機関

職　　名

氏　　名

電話・FAX

メールアドレス

下記により次世代の海洋人材を育む多様な海洋生物学教育推進拠点・共同利用を申請します。

記

１．共同利用の詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 教育プログラム名称 |  |
| 新規・継続の別 | 新 規　　　継 続（　　　年度から）　（○を付して下さい） |
| 共同実施項目 | ①実習　②卒論・修論研究　③研究集会　④その他（　　　　　　　　）（○を付して下さい。募集要項「共同利用教育活動分類」参照、複数可） |
| 単位の有無 | 単位有り　　　　　単位無し　　（○を付して下さい） |
| センター教員の指導協力（注1） | 　　希望する　　　　　希望しない　（どちらかに○を付し、協力を依頼する教員が決まっている場合は下の氏名リストにも○をお願いします）　　熊野　　美濃川　　岩﨑　　森田　　福森 |
| 実施期間（注2） | 第1希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日）第2希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日）第3希望：令和　　年　　月　　日（　曜日）から令和　　年　月　日（　曜日） |
| 利用予定者数（注2、3） | 教員　　　　名、学生　　　　名、他（TA等）　　　名、合計　　　　名 |

（注1）協力を依頼したい教員がいましたら、事前にご連絡をお願いします。

（注2）多人数による利用申請が重複する場合は日程調整をお願いすることがあります。

申請書には利用を希望する日時と、利用者のおおよその人数を必ずお書きください。

（注3）採択後の利用手続き時に、利用者名、性別等、詳細な情報をご連絡いただきます。

３．共同利用の内容（できるだけ具体的かつ簡潔に記入して下さい）

|  |
| --- |
| ①共同利用の目的及び期待される教育効果②同利用の計画・方法（教育目的を達成するための計画、方法、及び共同利用をおこなう必要性等）1. その他付記する事項（実習消耗品、分析機器類の利用、生物研究材料の供給などの希望がありましたらご記入ください）
 |